

① 公社造林地での林業専用道作設に向けた現地踏査を実施

令和2年7月21日(火)に、林業公社職員と原木生産の低コスト化を目的とした、団地の基幹道である『林業専用道』の作設に向けた現地踏査を実施しました。

今回は既設の森林作業道から林業専用道への格上げも考慮し、公社造林地の2団地を踏査し、接続道からの入口が取り付け可能か、大型トラックが走行可能か、縦断の勾配が急でないか、R(曲がり)の角度はきつくないか、地形が岩盤地等でないかなど、図面上では判別できない点について、現地踏査を実施しました。

実際に現地踏査を実施してみると、1団地については、図面の等高線では傾斜が緩く、道が作設できそうな箇所でも、実際の現地は急で取りつけが難しい等の問題点が判明し、もう1団地については、既設の森林作業道の拡幅や改良を実施すれば、作設の見込みがありました。

今後は、実際の実施時期や予算等について、関係者も含め前向きに検討していければと考えています。



専用道入口検討の様子



既設の作業道の様子

② 県立益田翔陽高校で林業体験学習を開催しました！

令和2年7月3日(金)に県立益田翔陽高校環境土木コースの3年生17名を対象に林業体験学習を開催しました。農林大学校林業科(飯南町)から2年生の学生と先生を講師先生としてお招きし、グラップル操作、丸太切り、ユニック操作の3つを体験しました。

グラップル操作では丸太を掴んで機械を旋回させて別の場所へ移動する操作を体験しました。初めて体験する作業で最初はレバー操作に苦労されている様子でしたが、数回でコツを掴んでいる様子でした。生徒は丸太を掴むことよりも置く操作が難しいと話しておられました。

丸太切り体験では、最初にノコギリで丸太切りを行った後、農大の学生に指導を受けながらチェーンソーを使いました。丸太は直径20cm以上ありましたが、チェーンソーでは少ない力で切れるので、便利だという声が多く聞かれました。下から切り上げる作業はチェーンソーの刃が見えにくいので切り曲がってしまったと話していた生徒もおられました。

ユニックの操作体験では、丸太をつり上げてトラックの荷台に載せる作業を行いました。レバーの操作加減でクレーンの速度が変わるので難しい作業でしたが、農大の学生の指導を受けて頑張っておられました。

今回の林業体験を通じて、林業に興味をもってもらい将来の仕事に生かして頂きたいです。講師として遠方からお越し頂きました農林大学校林業科の先生、学生の方々にお礼申し上げます。



グラップル操作体験の様子



チェーンソー体験の様



ユニック操作体験の様